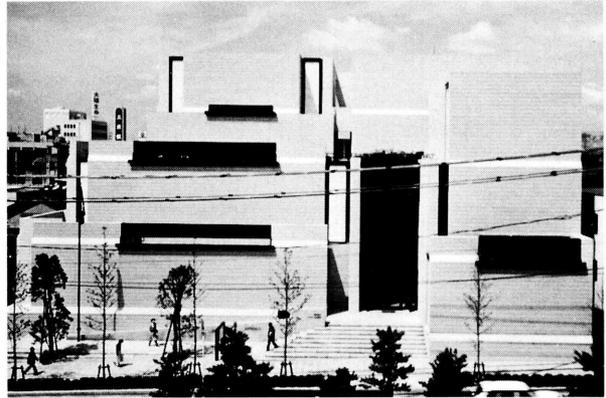


第9回 BELCA賞 ロングライフ部門 表彰建築物

岡山市立オリエント美術館

所在地：岡山市天神町9-31
用途：美術館
所有者：岡山市
設計者：株式会社 岡田新一設計事務所
施工者：株式会社 竹中工務店
株式会社 まつもとコーポレーション
維持管理者：岡山市教育委員会
竣工：1979年



わが国における数々の美術館が、それぞれのジャンルの中で、そのコレクションの特徴を生かして魅力のある展示を行なうことは、もっとも大事なことであるが、一方、異文化のコレクションを展示するために出来た美術館は、それなりに貴重なものとはいえ、その数や質には限界があるのは致し方の無いことでもある。したがって、見る人に如何に感銘を与えられるかという目的を達成させるためには、美術館の収蔵品の数や、質の問題と同時に、美術館の運営とその建築自体がおおいに拘わってくる。

岡山市立オリエント美術館は、岡山市在住の安原真二郎氏の蒐集されたオリエントの美術品(約2000点—いわゆる安原コレクション)を後世に伝えると共に、岡山市民のオアシスになる建築としたいとの意図のもとに建設された。そして、そのコレクションの背景となるオリエント文明の世界をテーマとしたこの建築は、オリエントの神殿の中にそそぐ太陽光と、乾燥した大地のイメージの創出をはじめ、繊細なディテールを伴った、さまざまな試みに対しての、設計者の優れた創造力を、精緻な施工の技術で実現している。

外壁は白色のリブのついた二丁掛けタイルを縦にはりあげ、大地から立ちあがる板状の壁が幾重にも重なってジグラードのイメージを造り、その壁の隙間のトップライトや、オニックスを通して入り込む外光が、内部のコンクリートのはつり面を舐めるように照らす仕組みとなっている。そのはつり仕上げは様々なディテールが工夫されていて、ホールの天井に張り上げられたオリエント風の釉薬をかけたタイルと、コンクリートや、花崗岩に対比してデザインされたブロンズの手摺の繊細なアイアンワークなど、密度の高い数々のデザイン(ボキャブラリー)が施され、さらに、緊張感のあるディテールに満ちた展示空間や、端正で落ち着いたきのあるセミナールームなど、美術館の機能を十分に備えながら、高度な建築空間を今日に至るまで確実に保持している。

運用についても、常設展示、特別展示、企画展などの美術館の一般的なローテーションにも大変魅力のある事業の展開が見られるが、特に注目されたのは、立体的な光のこぼれる中央ホールや、吹き抜けで一体になった2階の光庭で行なわれるギャラリーコンサートをはじめ、ジュニア・オリエント教室や、ワインパーティなど、市民のためのサロンとしてのミュージアムの位置付けに成功している事である。

維持管理については、竣工後15年目に、設計者を中心に建物劣化調査診断を行ない、20年先を見据えた長期維持保全計画を立てそれを実行している。また、収蔵品の温・湿度管理にも熱意と愛着をもって、それに勤めている姿勢が感じられた。